講義名	課題演習(流通・マーケティング)			授業形態	その作				
					: 各	自の研究分野の既存論文や文献 宣、教員から配布			
	* +n0	開講期・曜日・時限 前期 木曜日 2時限			, Add.	1、 外東ルラ船市			
担当教員	李 志明				⊒ I				
		単位数 2 履修開始年次 1年生	ナンバリング・ ード	<b>-</b>					
					<b>二</b>				
主題と概要					授業記	+=			
護題演習では、修士論文の作成を視野に入れて、研究テーマの選定、文献レビュー、研究の課題と方法について修得する。毎回、数名の受講者が先行研究や自分の研究についてブレゼンテーションを行い、 全員と講論を行う。						豚や卵について			
Excess c.17,						超演音について 分の既存論文の発表と議論			
					3. 員	分の既存論文の発表と議論 行研究の理解:研究のテーマ設定方法			
					5. 分	行研究の理解:研究のテーマ設定万法 行研究の理解:研究の位置づけ			
					7. 5	行研究の理解:研究の位置づけ 行研究の理解:研究の位置づけ			
					9. 先	9 . 先行研究の理解:饭設と研究方法 10 . 先行研究の理解:饭設と研究方法			
I					11.	2. 自分の既存論文の発表と議論 3. 自分の既存論文の発表と議論 4. 先行時労の理解: 研究のテーマ設定方法 5. 先行研究の理解: 研究のテーマ設定方法 6. 先行研究の理解: 研究の使置づけ 6. 先行研究の理解: 研究の便置づけ 9. 先行研究の理解: 研究の健置が対 9. 先行研究の理解: 研究の健康が表法 10. 先行研究の理解: 研究の建設が表述 11. 先行研究の理解: 研究の建設が表述 11. 先行研究の理解: 研究の服务 に議論 12. 先行研究の表表と議論 14. 自分の研究の中間報告と議論 14. 自分の研究の中間報告と議論 15. 大行研究の中間報告と議論 16. 大行研究の中間報告と議論 17. 大行研究の中間報告と議論 18. 大変更才を可能性あり。			
1					13. 14.	13. 先行研究の表をと議論 14. 自分の研究の中限報告と議論			
					15.	自分の研究の中間報告と議論 牧によって変更する可能性あり。			
到達目標					<b>-</b>       ``				
1. 修士論文作成の基盤づくりができるようになる。 2. 論理的な思考力を身につけるようになる。									
2 . 論理的な思考力を身につけるようになる。									
相小细胞					<b>⊣</b> I				
提出課題	/				- 1				
台目の報告レジ:	1メを作成し、全員に配布する。				₩ <del>기</del>	<b>彡態(アクティブ・ラーニング)</b>			
					(又未7				
					<del>  _</del>	ア: PBL (課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
					$\square$	ウ:ディスカッション、ディベート オ:ブレゼンテーション		エ:グループワーク	
					- 1 ⊢			カ:実習、フィールドワーク	
					-1 ⊢	キ:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	)		
					-				
					準備:	学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
理算 (レポート	・カルテスト等)に対するフィードバックの方法				一 予習 復習	(2時間):自身の関心に沿った文献を渉猟し、レジュメを作成する (2時間):授業中の議論の要点を整理し、関連文献をさらに収集する			
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法 全員で議論しながらフィードバックする。					┩╽┈┈	,			
主兵で議論でなん	554 17(5) 4 5.								
$\mathbf{I}$					卒業記	忍定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
評価の基準					本講	本講義は、特に、本学ディブロマポリシーにある「論理的思考力を持った人材育成」に資することを念頭において進める。			
					<b>⊣</b> ।				
・議論参加 (50%) ・ブレゼンテーション (50%)									
$\parallel$									
,									
履修にあたって	の注意・助言他				┪┖┈				
<b>履修にあたっての注意・助言他</b> ・ 修十学生としての刊巻を持ち、学生主道の議論をすることが求められます					双方向	列授業の実施及びICTの活用に関する記述			
・修士学生としての知覚を持ち、学生主導の議論をすることが求められます。 ・互いに発展できるよう、積極的に意見交換をします。					教員	および学生同士の積極的な討議によって講義を進める。			
					rings A	マルチのナー エッグエロ			
						経験の有無及び活用			
						経験あり。 データ分析や物流政策立案の支援経験がある。民間企業や政府の考え方と仕事の	Dやり方などを伝え、より現	実感のある授業を提供する。	
I									
					<b>⊣</b> l				
教科書									
.使用しない.									
			†		備考				
参考図書		1			開写				
> 写凶音			1		<b>-</b>				
					<b>⊣</b> I				
			<u> </u>	l	ا لـ				
					11				
		i .							